

# CUCMでのGUIからのバックアップと復元の設定

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[バックアップ](#)

[復旧](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、次の設定要件について説明します。 Backup と Restore CUCMの機能は Graphic User Interface (GUI).

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Communications Manager
- Secure File Transfer Protocol (SFTP)

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco Unified Communications Manager version 10.5.2.15900-8

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

「 Disaster Recovery System (DRS)は、CUCM Administrationから呼び出すことができ、クラスタ内のすべてのサーバに対して完全なデータバックアップおよび復元機能を提供します。DRSでは、定期的にスケジュールされた自動またはユーザが起動するデータバックアップが有効になります。

DRSは、プラットフォームのバックアップ/リストアの一部として、独自のパラメータ（バックア

ップデバイスおよびスケジュールパラメータ)をリストアします。DRSはバックアップと復元を行い、drfDevice.xmlとdrfSchedule.xmlファイルが削除されます。これらのファイルを使用してサーバを復元する場合、DRSバックアップデバイスとスケジュールを再設定する必要はありません。

「Disaster Recovery System 以下の機能を備えています。

- バックアップおよび復元タスクを実行するためのユーザインターフェイス
- バックアップおよび復元機能を備えた分散システムアーキテクチャ
- スケジュール バックアップ
- バックアップを物理テープ・ドライブまたはリモートSFTPサーバにアーカイブ

「Disaster Recovery System 2つの主要な機能を備えています Master Agent (MA) と Local Agent (LA)。

「Master Agent バックアップと復元のアクティビティを調整する Local Agents.システムによって自動的に Master Agent と Local Agent クラスタ内のすべてのノードで実行されます。

CUCMクラスタ(CUCMノードと Cisco Instant Messaging & Presence (IM&P) サーバ)は、次の要件を満たす必要があります。

- Port 22 SFTPサーバとの通信を確立するために開きます
- このテストで検証された IPsec と Tomcat 証明書は期限切れではありません。証明書の有効性を確認するには、n~を避ける Cisco Unified OS Administration > Security > Certificate Management

注:ipsecおよびTomcat証明書を再生成するには、「[CUCMで証明書を再生成する手順](#)」を使用します

- データベースレプリケーションの設定が完了し、CUCMパブリッシャとIM&Pパブリッシャサーバからのエラーや不一致が表示されていないことを確認します。

SFTPサーバの設定は、次の要件を満たしている必要があります。

- ログインクレデンシャルを使用できる
- CUCMサーバから到達可能である必要があります
- リストアの実行時に選択したパスにファイルが含まれる

## 設定

### バックアップ

「Disaster Recovery System クラスタレベルのバックアップを実行します。つまり、CUCMクラスタ内のすべてのサーバのバックアップを中央の場所に収集し、バックアップデータを物理ストレージデバイスにアーカイブします。

ステップ 1 : データを保存するバックアップデバイスを作成するには、 Disaster Recovery System > Backup > Backup Device.

ステップ 2 : 選択 Add New ; 定義 Backup Device Name SFTP値を入力します。 Save

ステップ 3 : データをバックアップするために、バックアップスケジュールを作成および編集します。移動先 Backup > Scheduler.

ステップ 4 : 定義する Schedule Name. 次のいずれかを選択します。 Device Name 次に、 Features お客様のシナリオに基づいて判断します。

ステップ 5 : シナリオに基づいてスケジュールバックアップを設定します。

**Start Backup at\***

Date: 2019 Jun 18 Time: 00 Hour 00 Minute

**Frequency\***

Once  
 Daily  
 Weekly  
 Monthly

Monday     Tuesday     Wednesday     Thursday  
 Friday     Saturday     Sunday

手順 6 : 選択 **Save** 図に示す警告に注目してください。選択 **OK** 前に進むために。

The DRS Backup archive encryption depends on the current security password. During a restore, you could be prompted to enter this security password if this password has been changed.

OK

手順 7 : その時は **Backup Schedule** が作成された場合は、 **Enable Schedule** .

**Scheduler**

Save Set Default Disable Schedule Enable Schedule Back

**Status**

Disabled

**Schedule Name**

Schedule Name\* DailyBackUp

ステップ 8 : ステータスが次のように変更されるまで待ちます。 **Enabled**.

**Disaster Recovery System**  
For Cisco Unified Communications Solutions

Backup Restore Help

**Scheduler**

Save Set Default Disable Schedule Enable Schedule Back

**Status**

Enabled

**Schedule Name**

Schedule Name\* DailyBackUp

ステップ 9 : 手動バックアップが必要な場合、 **Backup > Manual Backup**.

ステップ 10 : 次のいずれかを選択します。 **Device Name** 次に、 **Features** お客様のシナリオに基づいて判断します。



# Disaster Recovery System

For Cisco Unified Communications Solutions

Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

## Manual Backup



Start Backup



Estimate Size



Select All



Clear All

### Status



Status: Ready

### Select Backup Device

Device Name\*

BackupDevice1 ▾

### Select Features \*

- CDR\_CAR
- UCM
- PLM

ステップ 11 選択 Start Backup 操作が進行中であると表示されます。

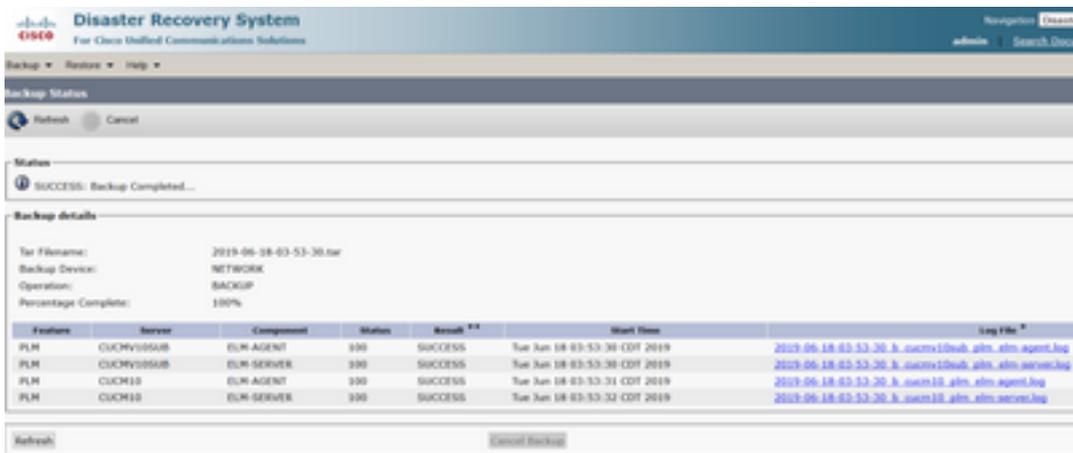
The screenshot shows the Disaster Recovery System interface during a backup operation. The status bar indicates "Backup operation in progress for server [XXXXXXXX], please wait...". Below this, the "Backup Details" section shows the following information:

- For filename: 2019-06-18-03-53-30.tar
- Backup Device: NETWORK
- Operation: BACKUP
- Percentage Complete: 0%

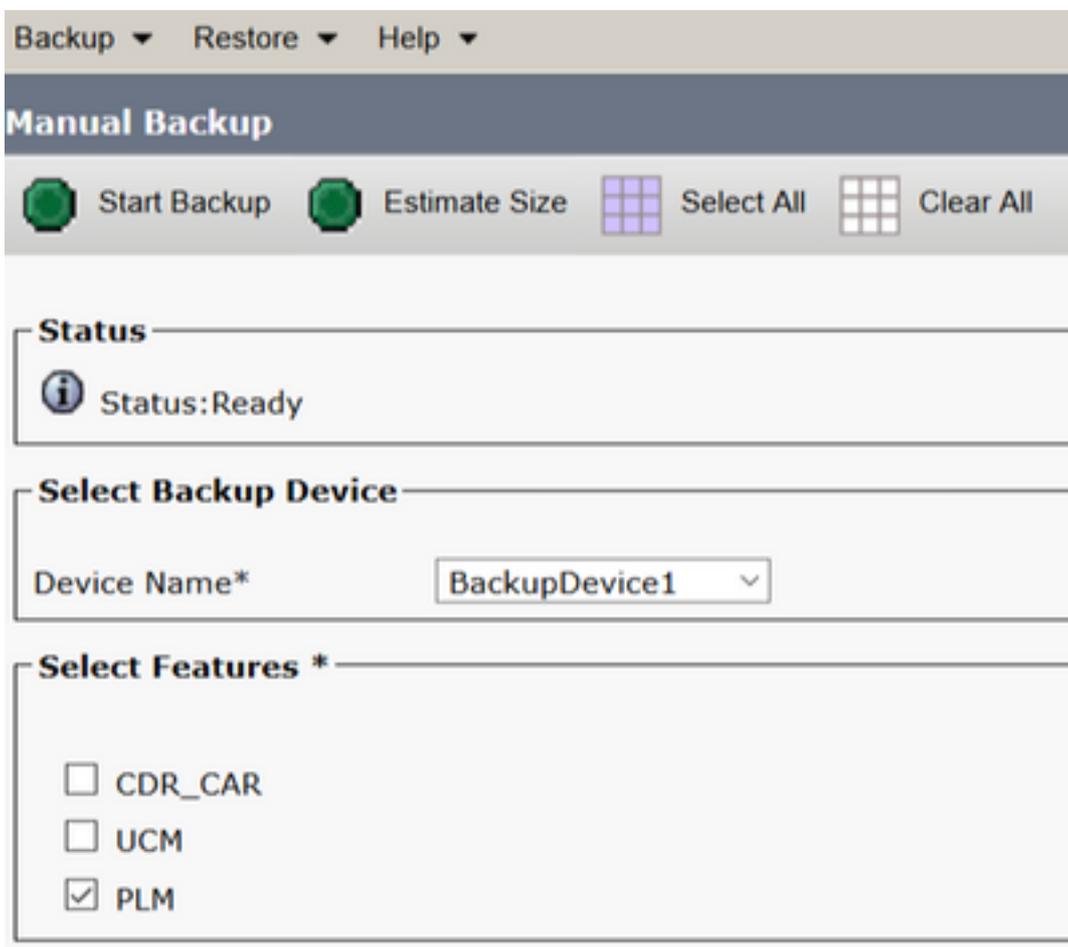
Hostname	Server	Component	ID	Status	Health	Start Time	Log File
PLM	CUCM/ISSUE	ELM AGENT	0	Active	---	Tue Jun 18 03:53:30 CDT 2019	
PLM	CUCM/ISSUE	ELM SERVER	0	---	---		
PLM	CUCM/ISSUE	ELM AGENT	0	---	---		
PLM	CUCM/ISSUE	ELM SERVER	0	---	---		

Buttons: Refresh, Cancel Backup

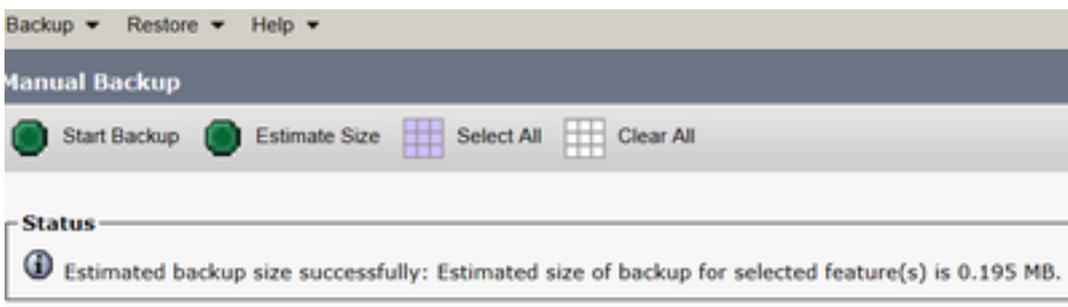
ステップ 12 手動バックアップが完了すると、完了メッセージが表示されます。



ステップ 13 SFTPデバイスが使用するバックアップtarファイルのサイズを見積もるには、Estimate Size.

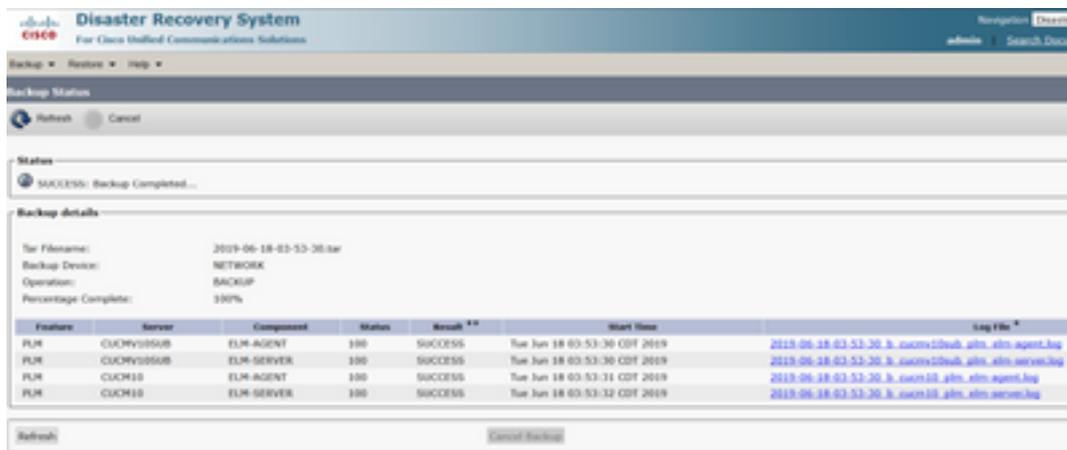


ステップ 14 : 概算見積書のサイズが図のように表示されます



注: Estimate Size関数は、前回の正常なバックアップに基づいて計算され、前回のバックアップ以降に設定が変更された場合に応じて異なる可能性があります。

ステップ 15 : バックアップの実行中にバックアップのステータスを確認するには、Backup > Backup Status.



ステップ 16 : システムで実行されるバックアップ手順を調べるには、に移動します。Backup > History.



## 復旧

DRSは主に drfDevice.xml と drfSchedule.xml ファイルが削除されます。ただし、システムデータの復元を実行する場合は、クラスタ内のどのノードを復元する必要があるかを選択できます。

注 : バックアップデバイス ( SFTPサーバ ) から tar ファイルを取得し、これらのファイルを使用してシステムを復元するには、バックアップデバイス ( SFTPサーバ ) がすでに設定されている必要があります。

ステップ 1 : 移動先 Disaster Recovery System > Restore > Restore Wizard.

ステップ 2 : 次のいずれかを選択します。 Device Name 復元に使用するバックアップファイルを保存します。選択 Next.



# Disaster Recovery System

For Cisco Unified Communications Solutions

Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

## Step1 Restore - Choose Backup device

 Next  Cancel

### Status

 Status:Ready

### Select Backup Device

Device Name\*

-- Not Selected -- ▾  
-- Not Selected --  
SFTP\_1  
BackupDevice1

Next Cancel

ステップ 3：次のいずれかを選択します。Backup File 図に示すように、使用可能なファイルのリストが表示されます。選択したバックアップファイルには、復元する情報が含まれている必要があります。



# Disaster Recovery System

For Cisco Unified Communications Solutions

Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

## Step2 Restore - Choose the Backup Tar File

Back Next Cancel

### Status

Status:Ready

### Select Backup Archive\*\*

Select Backup File\*

-- Tar file list --

-- Tar file list --

2019-06-18-03-51-57

2019-06-18-03-53-30

ステップ 4：使用可能な機能のリストから、復元する機能を選択します。

Disaster Recovery System  
For Cisco Unified Communications Solutions

Backup ▾ Restore ▾ Help ▾

### Step3 Restore - Select the Type of Restore

Back   Next Cancel

Status

Status:Ready

Select Features\*

PLM

Backed up components in TAR:

Feature	Server
PLM	CUCM105UB ELM-AGENT
PLM	CUCM105UB ELM-SERVER
PLM	CUCM10 ELM-AGENT
PLM	CUCM10 ELM-SERVER

ステップ 5：リストアを適用するノードを選択します。



注:ワンステップ復元では、パブリッシャがすでに再構築されているか、新規インストールされている場合に、クラスタ全体を復元できます。このオプションは、復元用に選択したバックアップファイルがクラスタのバックアップファイルであり、復元用に選択した機能にパブリッシャノードとサブスクライバノードの両方に登録されている機能が含まれている場合にのみ表示されます。

手順 6 : 選択 Restore プロセスを開始すると、復元ステータスが更新されます。



手順 7 : 復元のステータスを確認するには、に移動します。 Restore > Current Status.

Disaster Recovery System  
For Cisco Unified Communications Solutions

Backup > Restore > Help

Restore Status

Refresh

Status

Restoring server [CUCMV10SUB], please wait... %

Restore details

Tar Filename: 2019-06-18-03-53-30.tar  
Backup Device: NETWORK  
Operation: RESTORE  
Percentage Complete: 50%

Feature	Server	Component	Status	Result **	Start Time	Log File *
PLM	CUCMV10SUB	ELM-AGENT	100	SUCCESS	Thu Jun 20 03:09:51 CDT 2019	2019-06-20-03-09-29_r_cucmv10sub_plm_elm-agent.log
PLM	CUCMV10SUB	ELM-SERVER	0	Active	Thu Jun 20 03:09:51 CDT 2019	

Refresh

ステップ 8 : Restore Status 変更 SUCCESS 完了したら、

Disaster Recovery System  
For Cisco Unified Communications Solutions

Backup > Restore > Help

Restore Status

Refresh

Status

SUCCESS: Restore Completed...

Restart Required

Please restart the server(s) [CUCMV10SUB] before performing the next restore for changes to take effect. In case of a cluster, restart the entire cluster.  
Note: If you have restored system to be in FIPS mode, please note it has been enabled, but has not taken effect yet. FIPS mode will be active only after next reboot.

Restore details

Tar Filename: 2019-06-18-03-53-30.tar  
Backup Device: NETWORK  
Operation: RESTORE  
Percentage Complete: 100%

Feature	Server	Component	Status	Result **	Start Time	Log File *
PLM	CUCMV10SUB	ELM-AGENT	100	SUCCESS	Thu Jun 20 03:09:51 CDT 2019	2019-06-20-03-09-29_r_cucmv10sub_plm_elm-agent.log
PLM	CUCMV10SUB	ELM-SERVER	100	SUCCESS	Thu Jun 20 03:09:51 CDT 2019	2019-06-20-03-09-29_r_cucmv10sub_plm_elm-server.log

ステップ 9 : 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。

```
admin:utils system restart

Do you really want to restart ?
Enter (yes/no)? yes

Appliance is being Restarted ...
Warning: Restart could take up to 5 minutes.
Stopping Service Manager...
- Service Manager shutting down services... Please Wait
Restart operation appears to be stuck

Would you like to force the Restart?

continue Restart (yes/no)?
Broadcast message from admin@CUCMV10SUB
(unknown) at 3:19 ...

The system is going down for reboot NOW!
```

ヒント : サポートされている手順を使用してシステムを再起動します。システムのシャットダウンまたは再起動を行います。

ステップ 10 : システムで実行される復元手順を調べるには、に移動します。 Restore > History.



## トラブルシューティング

このセクションでは、設定のトラブルシューティングを行うための情報について説明します。

CUCM クラスタ(CUCM ノードと Cisco Instant Messaging & Presence(IM&P) サーバを含む)は、次の要件を満たす必要があります。

- Port 22 SFTP サーバとの通信を確立するために開きます
- このテストで検証された IPsec と Tomcat 証明書は期限切れではありません。証明書の有効性を確認するには、n~ を避ける Cisco Unified OS Administration > Security > Certificate Management

注 : ipsec および Tomcat 証明書を再生成するには、「[CUCM で証明書を再生成する手順](#)」を使用します

- データベースレプリケーションの設定が完了し、CUCM パブリッシャと IM&P パブリッシャサーバからのエラーや不一致が表示されていないことを確認します。
- サーバと SFTP サーバ間の到達可能性を検証します。
- 次のコマンドを使用して、クラスタ内のすべてのサーバが認証されていることを検証します  
`show network cluster.`

バックアップまたは復元の失敗が報告され、さらにサポートが必要な場合は、次のログのセットを収集し、Technical Assistance Center(TAC)と共有する必要があります。

- Cisco DRF マスターログ
- Cisco DRF ローカルログ
- DRF の [Current Status] ページからの障害ログ
- 問題のタイムスタンプ

## 関連情報

- [サポートされる SFTP サーバ](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。